

郵便  
報知新聞  
第四百二十六号

日光山の天狗の使と号する似而非の漢  
己が名に似る高被小鬘髪頭巧みの  
浅き深川の其名も高き鼻柱西村が  
宅に至り何れも蹠蹠へ白銀の大國の像  
と三四回と出—其許信心の深きを  
予が師公の感への以福寿田滿無量と  
授んと態々特使と立られんと物有  
貌論せども園套ハ契ハ大膽老物  
俺ハ商人中の大天狗你的似き木の  
葉天狗ハ部曲の裏面も見える奴  
あり脚底の明白際ニ退去らる眼  
物見せんと眼鏡の上端より赫と睡  
—眼の光り不懼怕て影を匿せ—  
と此ハ明治七年秋の事

龜洲漁人誌



庄金鐘堂

大獲芳名



70  
65  
60  
55  
50  
45  
40  
35  
30  
25